

## 同じ到達目標を持つ異なる形態授業の効果の比較

### Comparative Analysis of the Effects of Different Class Formats with Same Learning Goals

竹岡 篤永

Atsue TAKEOKA

事業創造大学院大学

Graduate Institute for Entrepreneurial Studies

Email: atakeoka@kumadai.jp

あらまし：オンラインリアルタイムのディスカッション中心の授業に加え、オンデマンド学習にアカデミック・アドバイジングを必修とした授業を設計した。形態は異なるが、どちらも同じ到達目標を達成できることを確認した。アカデミック・アドバイジングを必修とすることは効率的ではなく、ディスカッションの効果が認められることから、両者の利点を取り入れた授業設計が望まれる。

キーワード：オンデマンド学習、オンライン学習、アカデミック・アドバイジング

#### 1. はじめに

N 大学で 2021 年度に刷新されたマイナー学修では、社会課題や興味・関心に基づいて自らが履修科目を選択し、マイナー学修として定義できる。これを担保するため、マイナー履修の計画立案を支援する科目とアカデミック・アドバイジングを新設した。新設科目は全 10 学部の 1、2 年生に開かれており、リアルタイムオンライン(以下、OR)で実施される。場所の制約はないが、ディスカッションを中心としているため時間的な制約がある。そのこともあり、受講者数が計画通りに増えないという課題があった。そこで、2022 年度 2 学期に、オンデマンドとアカデミック・アドバイジング(以下、AA)を組み合わせた科目(以下、ODA)を追加した。本研究は、到達目標は同じで異なる形態を持つ 2 つの授業の特徴と効果を検証する。

#### 2. 授業の概要

2 つの科目は、同じ到達目標を持つ。

- (1)マイナー学修デザイン(自らのねらいに沿ったマイナー学修の計画書)を作成することができる。
- (2)自らの興味・関心を探究課題として捉えなおし、それをメジャー・マイナー両領域から説明できる。
- (3)協働学習を含む総合的な学修活動において、自らを動機づけ、自律的に学びに向かうことができる。

両方とも、半年間で全 8 回、1 単位の科目である。RO でディスカッションを中心に据えたのは、受講者同士の話し合いから、自分とは異なる考え方に触れられること、また、マイナー学修へのモチベーションを高めるためである<sup>(1)</sup>。ODA では、すべてオンデマンドではなく、ディスカッションでねらう気づき等を得るために面談(AA)を、到達目標(3)をカバーするために春休み期間に対面授業(ディスカッション)を組み込んだ。表 1 に 2 つの授業の主要素を示す。なお、各回の授業の内容は同じであるが、一部、順番を入れ換えた。

#### 3. 方法

授業中ディスカッションと AA の違いを明らかにするために、AA の利用時期・所用時間を比較した。また、授業全体の効果を検証するために、最終レポートを比較した。

#### 4. 結果

2022 年度 2 学期、RO は 19/20 人が合格、ODA は、9/11 人が合格した。

##### 4.1 アカデミック・アドバイジングの比較

AA の利用時期と 1 回当たりの所用時間を比較した。RO では 1 度も利用しなかった受講者が 4 人いた。結果を図 1、図 2 に示す。青は 1 回目、緑は 2 回目、黄色は 3 回目、赤は 4 回目の利用である。

RO は利用時期・所用時間・利用回数がばらばらで、自由度の高いものであった。ODA は時期を決め、また、授業内容とリンクさせていたため、ばらつきが少ない。なお、ODA の右端上部の緑点は、補習も兼ねた AA である。

##### 4.2 最終レポートの比較

同じルーブリックを用いて最終レポート(授業全体をふりかえるレポートとマイナー学修デザイン)に付けた得点を比較した。ルーブリックの観点は全部で 7 つある。RO、ODA の平均点はそれぞれ、36.49 (SD 3.36)、34.50 (SD 5.75)であった。得点分布を図 3、図 4 に示す。

RO には 90%以上の得点者が多く、ODA では 60~70%の得点者が 2 人いる。1 人は出題 2 つのうち 1 つにのみ記述した。記述忘れと思われる。

図 4 から到達目標(1)の点数のみ出来具合にはほとんど差がないことがわかった。ルーブリックの観点毎に平均得点を比較すると、観点「メジャー・マイナーの調査行動」で、ODA の得点が低いことがわかった(OR 2.60、ODA 2.25)。

表1 2つの授業の比較（主な要素のみ）

		RO	ODA
主な方法と特徴		ディスカッションを中心とし、その前後に課題を配した授業で、受講者は必要に応じて授業外の時間にアカデミック・アドバイジングを利用できる	LMS によるワークと春休み期間の対面授業により、自分のペースで学習のできる授業で、決められた期間のアカデミック・アドバイジング（2回）を必須とする
スケジュール		おおむね隔週で実施 水曜日6限	3ブロック構成で実施 1ブロック：3回/2ブロック：3回/3ブロック：2回
授業ルーチン		リアルタイムオンライン 事前課題→授業〔目標→企業ミニ・レクチャー→ディスカッション〕→事後ふりかえり ※ 企業ミニ・レクチャーは4回実施	LMS 目標→説明→ワーク（課題提出）→ふりかえり（LMS 掲示版） ※ 第3回・第6回：面談が付加 ※ 第8回：対面授業が付加（春休み期間）
主な要素	アウトプット	事前課題、事後ふりかえり（両方とも課題提出） セルフインタビュー動画、マイナー学修デザイン、最終レポートという3つの最終成果物は同じ	ワーク（課題提出）、ふりかえり（LMS 掲示版）
	インプット	説明、企業ミニ・レクチャー（両方ともリアルタイムオンラインの授業時間に実施）	説明（LMS 上に文章で掲示）、企業ミニ・レクチャー（オンデマンド動画）
	ディスカッション	授業時間中（2学期は授業時間の63%）	対面授業（3時間）
	アカデミック・アドバイジング	任意：火・木・金（11:55～12:45/14:00～16:00）のいつでも。または、予約	必須：第3回として11月中に。第6回として1月中に。その他は予約で随時



図1 ROのAA（利用時期と所用時間）



図2 ODAのAA（利用時期と所用時間）

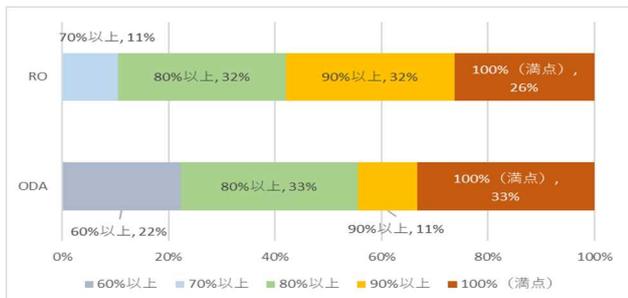


図3 最終レポートの得点比較

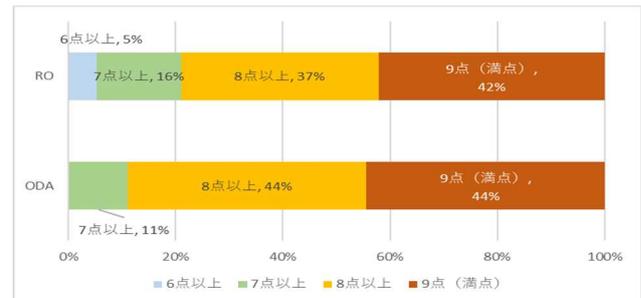


図4 マイナー学修デザインの得点比較

## 5. 考察とまとめ

どちらの形態でも同じように、マイナー学修デザイン（学修計画書）が作成できたことがわかった。同じ課題に取り組ませれば、ほぼ同じ結果が得られることが示唆された。調査行動の記述に差がついたのは、面談の順に依るところが大きい。ODAでのメジャー調査は、1回目面談後であったため、十分なフィードバックが行えなかった。また、ROでは同じメジャーの受講者同士のディスカッションが、調査行動の記述に関連すると考えられる。

ODAでは授業としてAAを組み込むことにより、

AAの量と質を偏りなく保証することができる。一方で、ROほどの自由度はない。ROでAAを活用しなかった受講者も合格レベルの最終成果物を出せたことから、ディスカッションには効果があると言えそうである。AAを授業に組み込むことは効率的ではない。全体の自由度を高めつつ、ディスカッションを保証する設計が望ましいだろう。

### 参考文献

- (1) 竹岡篤永：グループ学習におけるHOMEグループ制度導入の設計と効果，日本教育メディア学会2022年度第2回研究会 日本教育メディア学会研究会論集 178-185（2023）